

様式第3号(第12条関係)

会 議 録

会 議 の 名 称	令和3年度第2回吉川市総合戦略推進審議会
開 催 日 時	令和3年12月8日(水) 午後6時00分から 午後8時20分まで
開 催 場 所	吉川市役所 304・305会議室
出席委員(者)氏名	大杉覚会長、瀬山紀子副会長、手塚崇子委員、西山亜弥委員 近藤旭委員、鈴木友治委員、小林照男委員
欠席委員(者)氏名	池田憲一委員、吉川真由委員、飯村毅委員
担当課職員職氏名	政策室 室長 浅水明彦 副室長兼政策室主幹 岡崎久詩 企画担当副主幹 油川誠 企画担当副主幹 相川美佐子 企画担当主任 平塚雅史 企画担当主事 三浦雄太郎 企画担当主事 野口陽子
会議次第と会議の公開又は非公開の別	1. 開会 2. あいさつ 3. 委員委嘱 4. 自己紹介 5. 会長・副会長の選出 6. 諮問 吉川市まち・ひと・しごと創生総合戦略について(諮問) 7. 議事 (1) まち・ひと・しごと創生総合戦略について(概略説明) (2) 第1期吉川市まち・ひと・しごと創生総合戦略について(総括) (3) 第2期吉川市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定について 8. その他 9. 閉会 [公開・非公開] 公開
非公開の理由 (会議を非公開にした場合)	
傍聴者の数	なし
会議資料の名称	次第 第1期吉川市まち・ひと・しごと創生総合戦略第3版(令和2年3月改定) 資料1 第1期吉川市まち・ひと・しごと創生総合戦略について(総括) 資料2 第2期吉川市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定方針

	資料3 人口ビジョン 資料4 第2期吉川市まち・ひと・しごと創生総合戦略基本目標（案） 参考資料1 吉川市総合戦略推進審議会条例 参考資料2 吉川市総合戦略推進審議会傍聴要領 参考資料3 吉川市総合戦略推進審議会委員名簿
会議録の作成方法	<input type="checkbox"/> 録音機器を使用した全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 録音機器を使用した要点記録 <input type="checkbox"/> 要点記録
会議録確認指定者	手塚崇子委員、西山亜弥委員
その他の必要事項	
審議内容(発言者、発言内容、審議経過、決定事項等)	
事務局  市長         会長	<p><b>1. 開会</b></p> <p><b>2. あいさつ</b> 当市では、人口増加が続いており、策定時と比べても状況は大きく変わっていない。第1期で策定した戦略の純度を高め、進化させていくことが重要であると考えている。人口減少をどのように克服していくか、地方をどのように盛り上げていくかの2本柱が国から示されている方向性となっている。総合振興計画と合わせて進めていく自治体も多い中、当市では、しっかりと総合戦略というものを考え、力を注いできた。また、人口減少を止めることが可能なのか、人口減少が本当の意味での活力や魅力がなくなることに繋がるのかという疑問も感じている。人口増加がまちの発展、幸せなのかといった点も含めてご議論いただきたい。当市では、市民の幸福実感の向上を目指すことが一番の目標である。市民によって感じる幸福感は千差万別であることから、行政がどこまで主導し、提供するべきなのかが重要であるため、市民の自治の意識や主体性の強さも求められる。今後は、そのようなバランスの在り方についてもご教授いただきながら、計画を練っていただきたい。2期目も宜しく願います。</p> <p><b>3. 委員委嘱</b> 市長から委嘱書を交付。</p> <p><b>4. 自己紹介</b></p> <p><b>5. 会長・副会長の選出</b> 委員から自薦・他薦の意見等がなかったため、事務局から会長に大杉覚委員、副会長に瀬山紀子委員を選出することを提案。 会長に大杉覚委員、副会長に瀬山紀子委員を選出することを全会一致で決定。</p> <p><b>6. 諮問</b> 諮問文書を中原市長から大杉会長に手交。</p> <p><b>7. 議事</b> 議事録の署名委員として手塚崇子委員、西山亜弥委員を選任。 傍聴要領に基づき、会議の公開を決議。また、率直なご意見をいただくという観点から会議録での名前は非公開とさせていただくことを決定。次回以降の</p>

	<p>会議についても公開することを決定。</p>
事務局	<p><b>(1) まち・ひと・しごと創生総合戦略について（概略説明）</b>  (資料を用いて事務局から説明)  【意見なし】</p>
事務局	<p><b>(2) 第1期吉川市まち・ひと・しごと創生総合戦略について（総括）</b>  (資料1を用いて事務局から説明)</p>
委員	<p>【意見・質疑等】  第1期の指標で入込観光客数とあるが、どのような指標なのか。</p>
事務局	<p>今回はコロナの影響で数値が0人となっているが、なまずの里マラソンなどの大きなイベントの客数を数値としており、市内外を問わずに来場者をカウントしている。</p>
会長	<p>人流については、携帯の位置情報等を用いたビッグデータなど、近年では把握できるようになってきているが、第1期策定時には、進んでいなかった部分でもある。市主催のイベントの集客数は今後も計測していった良いと思うが、今後は、別の視点を取り入れても良いのではないかと。</p>
委員	<p>家庭教育学級、地域寺子屋事業の詳細を確認したい。</p>
事務局	<p>家庭教育学級は、子どもや保護者の学びの場として、小中学校のPTAや保育園、幼稚園、認定こども園の保護者会などにより開催されるもので、講師の選任等を市で支援しているものである。また、地域寺子屋事業は、夏休みなどの期間に子どもの居場所をつくることを目的とする事業で、自治会が中心となり開催をしているが、地域主体で行っているため、実施のハードルが高く、第1期では、数値を伸ばすことが難しい指標でもあった。</p>
委員	<p>目標の9団体は、自治会の数を指しているのか。</p>
事務局	<p>自治会等と聞いている。</p>
会長	<p>コロナの影響で数値が悪くなっているものもあるが、産業に関する指標の設定の仕方については、工夫をしていく必要があり、第2期の課題になると考えている。</p>
事務局	<p><b>(3) 第2期吉川市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定について</b>  ・第2期策定方針  ・人口ビジョン  (資料2、資料3を用いて事務局から説明)</p>
委員	<p>希望する子ども数が約2人となっているのに対し、合計特殊出生率は約1.3と大きな乖離があるため、子育てに対する取組に力を入れていくといったことは悪くはないと思う。例えば、兵庫県明石市は様々な施策により、合計特殊出生率が1.7を超えている。1.7がゴールというわけではないが、そのような事例を参考にするのもよいのではないかと。</p>
事務局	<p>大きく乖離している点については、事務局でも注視し取組を進めてきた。今後も子育ての施策については、力を入れ取り組んでいきたいと考えている。</p>
委員	<p>吉川市では、現在人口が増加しており、この状態を少しでも長く伸ばすこと</p>

は重要だとは思いますが、合計特殊出生率を2.07にするというのは夢の数字であり、現状を維持することすら難しい。そのため、合計特殊出生率だけを考えた場合、人口増加は望めない。合計特殊出生率だけで計算するのは恐ろしい話で、人口減少していく中で、合計特殊出生率が上がったからといって、人口が増えるわけではない。分母が変われば答えは変わってしまうため、合計特殊出生率ではなく具体的に出生数と置き換えるべきだと考える。

さらに出生数で見ると、合計特殊出生率は15歳から49歳の通過していく数であるため、出産適齢年齢についても、人口との掛け算を行い、そのうち流入人口がどれくらいなのかなど、推測値でもよいのでより具体的な数値を採用し議論するべきだと考える。

また、人口が増加しているというような言葉を聞くと危機感を感じてしまう。1990年に合計特殊出生率が1.57になって初めて、我々は人口が減っていくと気付いたにも関わらず、その後効果のある施策を行ってこなかった。その当時、何となく高齢者が長生きすることがすばらしい社会だといった風潮があったが、その時と同じような感じがしてしまう。

人口増加しているということは奇跡が起きているだけであって、人口増加のピークを先延ばしにするといったことをベースにするのではなく、もはや目の前で始まっている人口減少をベースに議論をするべきではないか。

吉川美南駅東口の開発においても単発事業である。一旦人口は張り付くがそこからは高齢化を待つだけである。人口が増えると言っても何の安心材料にもならず、むしろ危機感でしかない。その後どうするのかといったことを考えるべきである。ただ単に人口が増加しているといった考え方は、甘く見すぎである。

私自身、総合振興計画の審議会委員も兼務しているが、総合振興計画の審議会においては、将来人口77,000人という設定は、高すぎるのではないかとの意見があった。下位計画である総合戦略については、もう少し危機感を持ち、現実的な数字とするべきではないか。

前回の第1期策定時にも、KPIの指標については議論をしたことを記憶しているが、市民意識調査の比較対象はどこなのか。にぎわいのあるまちと言われたときにどこと比べてにぎわいのあるまちなのか。結果として数字は良いが、ただ結果が良かったというだけで満足していると、計画の本質を見誤ってしまうことになる。例えば、現在人口が日本一伸びている流山おおたかの森の市民意識調査と比べるとどうなのか。ターゲットを絞り、負けた理由、選ばなかった理由なども分析するべきだと考える。

子育て支援をどれだけ充実させても子どもは増えないと考えている。子育て支援だけに重きを置くだけではなく、生涯独身率を下げるなど、子どもを出産する前の施策も必要なのではないか。他の自治体でも出会いからケアする施策を行っている。

- |     |  |
|-----|--|
| 委員  | 今後のスケジュールについての確認になるが、今年度会議を何回予定しており、どこまでに何をしなければいけないのかを確認したい。  |
| 会長  | スケジュールについては、事前打合せの際に、私からも事務局へ伝えていたが、逆に委員の皆様の議論次第で、今後の流れが流動的になるとのことであったため、最終的にいつまでにこの計画を策定しなければならぬのみお伝えすることとした。                                 |
| 事務局 | 総合戦略の審議会については、本日は基本目標（案）までのご意見をいただき、次回以降は本日お渡ししている計画の冊子のような素案をお示しし、それについてご意見をいただければと考えている。<br>この計画自体、今年度で計画期間が終了することから、今年度中には次期計画を策定しなければならない。 |

会長	そういった意味では、非常に限られた時間で計画を策定することとなる。
事務局	ただし、先程市長からも話しがあったとおり、第1期の基本的な方向性は継承していく考えであるため、大きく方向性を変更する予定はない。
会長	冒頭でも説明があったとおり、国のまち・ひと・しごと創生法に基づき、第1期、第2期と策定する中で、継続してどこまで何ができたかを検証するものであることから、総合戦略の計画の性質上、ゼロから議論するものではないという点をご理解いただきたい。 ただし、見直すべき箇所については、しっかりと手を入れていきたいと考えている。
委員	市民意識調査は、満足とどちらかと言えば満足と回答した方の割合が、約7割を占めているのが全体の傾向だと思うが、どちらかと言えば満足と回答した方を満足に引き上げたいのか、どちらかと言えば不満と回答した方を満足に引き上げたいのか、そこを確認したい。 市民の幸福実感とあるため、子どもだけではなく、高齢者や障がい者など色々な方々が対象になると思うが、市民意識調査ではまだまだ低い水準の数字も見受けられる。この低い水準の数字を上げていくことを目指すのか、高い水準の数字をさらに高くすることを目指すのか、ターゲットをどこに定めているのかを知りたい。 また、不満と回答した方が、何に対して不満なのかについても、掘り下げて把握することができれば、数字の改善にも役立つはずだと考える。
会長	市民意識調査については、毎年実施しているものであり、他の自治体においても概ね同じような形で行われている。設問の設定など、課題はあるかと思うが、経年で数字を追いかけることは意味のある事だと思う。 しかし、各施策に対して当事者意識の高い市民に意見を聞き、深掘りする場が少なかったのではないかという印象を持っている。そのため、今皆様からいただいた質問をさらに議論していくといった材料がないのが正直なところである。そのような点を第2期でどう捉えていくのか重要といえる。
事務局	市民意識調査については、全庁的に参考としており、子育てや学校教育などについては、結果を踏まえ様々な取組に繋げている。 また、経年で数字が取りやすいということもあり、総合戦略においても指標として採用しているが、数字が低い理由や不満と回答した方の理由については、中々見えづらい部分もある。 今までの審議会においても、各担当課の取組内容などをもう少し詳細に拾っていくべきではないかとの意見もあったため、今後検討していきたい。 満足度が低い方を上げていく、満足度が高い方を維持していくといった点については、両方の視点が必要であると考えている。
会長	各部署において、独自にアンケートを実施している課があると思うので、それを指標に採用するかは別にしても、この場に出し議論することも良いのではないかと。アンケートは実施していないが、現場の職員がこんな風を感じている等、そのような素材がもう少しあっても良いと思う。
委員	私は三輪野江地区に住んでいるが、資料53ページの住み心地がよいと感じた理由の上位に、「買い物などの生活の便」、「子どもの教育環境」、「近所づきあい」とあり、非常に驚いた。三輪野江地区には買い物できる施設がなく、住民は買い物難民となっている。また三輪野江小学校は生徒が200人程度しかいない。生徒が少ないというのは、良い面もあるが悪い面もやはり多い。

	<p>旭・三輪野江地区と人口増加を続けている地域では、住み心地などの不満の理由が明らかに違うと思う。地域により捉え方が違うため一括りにしてしまうことに違和感がある。</p> <p>また、各調査に20～30歳代のグラフがあるが、旭・三輪野江地区には20～30歳代はほとんどいないため、人口減少地区の意見が反映されないようにも感じてしまう。</p> <p>先程別の委員の方も発言されていたが、人口減少に対して危機感を持つということであれば、人口減少地区の意見をヒントにすることも必要だと思う。</p>
委員	<p>市民意識調査は無作為抽出とあるが、地区別に結果を出すことはできないのか。</p>
事務局	<p>可能である。地区別や年齢別によってどういった傾向があるかは事務局では把握している。また、自由意見欄も設けているため、世代別にどのような意見が多いのかも注視しているところである。ただし、地区別や年齢別で絞った場合に、分母が少なくなってしまう、一人の方の回答割合が非常に大きくなってしまうことになる。データとしては、参考程度ということになるため、公表はしていない。ただし、この場においては、そのようなデータも必要であればお出しすることも検討させていただく。</p>
委員	<p>そもそも対象者が1,500人という数字自体妥当なのか。</p>
会長	<p>全市として取る分には有意な数字であると思う。市の規模に関わらず1,500人から2,000人を対象に実施している自治体が多い。地区毎に調査するとコストの問題もあるだろう。</p>
委員	<p>人口計画においては、コロナの影響を加味したのか。もし加味していないのであれば、これから数字が出てきたときに、5年間の計画期間の中で、適宜見直しを図っていくのか。</p>
事務局	<p>コロナの影響については、推移を分析していく必要がある。計画を見直すのか、数字としてコロナ時の状況を示しながら進めるかは今後考えていくべきだと感じている。</p>
会長	<p>吉川市では、コロナ禍においても人口は増え続けているが、転入、転出の要因としては今までと変化はあるのか。</p>
事務局	<p>現状詳細なデータは持っていない。</p>
会長	<p>この点については、大きい話だと思う。</p>
委員	<p>コロナ禍で出生数自体の激減について、データでも既にあると思うが、母子手帳の交付数でも把握することができるため、来年の出生数予測もできるはずである。それらを把握し、何かしら計画に反映させることもできるのではないか。あまり変わらないということであれば、このまま進める形でも良い。</p>
会長	<p>出生数もそうだが、社会増減をどう読み取るか。このタイミングでは中々難しい。</p>
委員	<p>社会動態について、20～24歳代の転入が非常に多いがどのように分析しているのか。</p>
事務局	<p>土地の価格が安いなどの点から、子育て世帯の方が入ってきているのでは</p>

	ないかと予測している。
委員	転入については人間の自然な動態だと思うが、草加市などは、15歳～34歳の転入が多いが、これは間違いなく大学があるからだと思う。
会長	吉川市の20歳～24歳の転入だけ突出というのは少しわかりづらい。大学があれば分かるが、比較的住みやすい、土地の価格が安いというのであれば、越谷市のように20～39歳の転入が多いといった傾向になるはずである。
委員	20～24歳の転入が多いのは、企業がある地域の特徴であり、松伏などは企業がないからその世代の転出が多いのだろう。その点を踏まえ、社会増を目指すのか、自然増を目指すのか。どちらに重きを置くのか。また、その両方を目指すのか。今までの施策を見ると、自然増に重きを置いているように感じる。今後は、どのように考えているのか。
事務局	第1期については、子育て世代が増えている中で、当然子どもへの施策は重要であるとの考え方から、このような構成となった。 先程委員の方からお話があったように、本人口ビジョンでは、目標として高い数値を示している部分もあるが、実態としては、減少傾向にあり、出生数を上げていくことだけでは、人口は増えていかないと考えている。 最終的には活力ある地域社会を目指す計画であるため、その点を踏まえ、どのような施策を打ち出していくことがよいのか、ご意見をいただきながら決めていきたい。
委員	もし仮に、出生数を上げるような自然増を重視するのであれば、20～24歳はターゲットとせず、20代後半から40代くらいまでの人口をどのように増やしていくかといった戦略を立てた方が良く考える。
会長	もう少し子育て世帯の転入が多いと思っていたため、20～24歳の転入が多いことは意外であった。表立って人口減少は表れていないが、人口のメカニズム自体は動き出しており、個別の地区での人口減少は既に始まっている。近い将来やってくる市全体の人口減少に向けてどのような取組を行っていくかが重要である。第1期もそのような視点を取り入れていたが、より色濃く打ち出すことも必要かもしれない。市の成長力などを組み合わせた指標については、検討が必要だと思うが、長期間追い続けた指標もあるため、継続し観察することも必要かもしれない。
	<p><b>(3) 第2期吉川市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定について</b>  <b>・基本目標 (案)</b>  (資料4を用いて事務局から説明)</p>
事務局	案では、幸福実感を全体の目標とし、その下に3つの基本目標を設定している。今後は、より具体的に今の局面に応じた視点を持ち、皆様からの意見を踏まえながら考えていくという方向で進めていきたい。
委員	総合振興計画の基本構想の方で横断的視点としてデジタルが挙げられているが、長期計画のため、先の見通しができない分野でもあることから、掘り下げできない部分もあった。下位計画でデジタルをしっかりとやっていくという話になったため、本会議では、リアリティのあるデジタルの話を交わしていく必要があると感じる。
委員	今後の流れとして、メールを用いて審議を行う案はいかがか。個人と事務局だけのやり取りでは、委員の皆様様に情報が共有されないという問題がある。メ

